

シジミチョウ特集

白山釈迦岳でミヤマカラスシジミの卵殻を発見

野中 勝

1981年11月7日、石川県白峰村白山釈迦岳の標高1200m付近で、クロウメドキよりミヤマカラスシジミの今年のものであると思われる卵殻1個と、絨毛生卵1個を確認した。

武藤(1971)によれば、本種の記録は岩間の1例が知られているにすぎない。採卵調査による記録の追加が望まれる。

武藤 明 (1971) 石川おしの会特別報告 第2号

ゼフィルスの新産地

野中 勝

既知の産地と比較的離れた地点で確認された以下の3種について古い記録も含めて報告しておく。

1) ヲラゴマダラシジミ

江沼郡山中町真砂 1980. IV. 24 4既脱出卵、1初令幼虫

これまで手取川以西では大杉谷から記録されていただけである(1)。食樹イボタ。

2) ヲラキンシジミ

小松市動山 1981. IV. 26 約20既脱出卵

本種も手取川以西では鞍掛山の記録(2)があるだけなので報告しておく。この付近の4~500mの山は、どこも山頂付近

にマルバアオダモがあり、採卵に適している。余談だが、登山で脱出卵を発見した樹(マルバアオダモ)には、「マルバアオダモ」の名称が下がついていた。

③メスアカミドリシジミ

石川郡尾口村蘇走ヶ岳 1981. XI. 1 4卵

医王山、岩間温泉のみから記録されていた種である(1)。山頂付近のキンキマザクラと思われる2m位の樹から採卵した。

- | | | |
|----------|---|--------------|
| (1) 吉村久貴 | 翔 | NO. 5 (1979) |
| (2) 野中 勝 | 翔 | NO. 8 (1979) |

石川県産オナガシジミの採卵記録例

野中 勝・嵯峨井淳郎

県産オナガシジミの採卵記録については、白見谷^{*1}、犀川ダム^{*2}などわずかな記録が報告されている。1981年11月22日、筆者らはフジミドリ、メスアカミドリ等の採卵のため白山山麓を調査した際、次の地点にて本種の卵が得られたので記録しておく。採卵したのはいずれもオニグルミである。

なお、吉野谷村中宮は既産地^{*3}であることを付記しておく。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 石川郡吉野谷村中宮 | 42卵 |
| 2. 石川郡尾口村目附谷 | 2卵(内1寄生卵) |

- | | |
|----------------|--------------------|
| *1 松本和馬 (1979) | 翔 NO. 3 |
| *2 吉村久貴 (1979) | 翔 NO. 5 |
| *3 山本順子 (1956) | 新昆虫 Vol. 9. NO. 13 |

大日川ダムにてオナガシジミを採卵

嵯峨井淳郎

1981年12月11日、小松市大日川ダム湖周辺(標高380m)のオニグルミよりオナガシジミ2卵を得た。大日川ダムは、石川郡魚越村と小松市の境界線に位置し、オニグルミは比較的よく目につくが、今回卵が得られたのは、小松市側に属する。

今シーズンは暖冬なのかほとんど雪がなく、付近のスキー場はすべてダメなのです。おもしろくありません。スキーができなくては採卵しかなさるくがありません。しぶしぶ愛車レオーネで山へ出かけた所、おもしろいながらもおもしろいながらもオナガシジミが採れたのです。あの珍らしい^{*1}、多分珍らしい^{*2}オナガシジミが採れたのです。それからというもののスキーできない青年^{*3}は、オナガシジミの採卵に走り始めたのです。嬉しいことに雪がほとんどないので、愛車レオーネはドロコにもめげず山をかけめぐったのでした。

「きかないクルマで、お正月ぐらいきれいにしてないの!!」などと言われながら。それにもましてスキーできない青年を励ましたのは、晴天でした。年末年始とうそのような晴天が続きました。スキーできない青年は、いそいそと山へ山へと、その街へは片足たりとも向くことはありませんでした。その結果がついに発表されるのです。皆さんスキーできない青年に拍手を送り、スキーできなかった青年にならぬよう祈りましょう。

第1部・スキーできない青年のオナガシジミ採卵法

オナガシジミはすべてオニグルミより採卵しました。卵のついていそいそオニグルミを見つけるのが決め手です。条件としては、谷にあるということです。この谷は深ければ深い程よく(谷が深い程周囲にたくさんのオニグルミがある)、さらに木際にあるオニグルミが長いようです。次に芽ですが、これは谷川におおいかぶさるように張り出した枝の、空(上)を向いている芽が長いようです。中でもポキッと折れる芽が長く、グニャと曲るような芽はだめなようです。また卵は、ポキッと芽の今年伸びた10cm位の間に産まれていて、この10cm位が美しい茶色の微毛に覆われているものが長く、この微毛がきかない黒色に変色しているのはあまり長くないようです。それとカイガラムシがたくさんついてる芽も長くないようです。オナガシジミの卵は前にも書いた様に、微毛上に産まれているのでちよつとした刺激で簡単にはがれ落ちます。注意して下さい。

第2部・オナガシジミ採卵結果

卵は休眠芽に1個あるいは2個でみつかりました。1個が104卵、2個が13組26卵です。だんぜん1個(単発)が多いようです。表1は結果をまとめたものです。オナガシジミは、金沢市内に以外と広く分布していると思われます。オナガシジミもついに墮ちました。

産 地	標高(m)	採 卵 日	採卵数	備 考
金沢市奥新保	200	1981-XII-31	1	少ない
〃 〃	300	1981-XII-31	1	少ない
〃 二俣	540	1982-I-11	6	
〃 田島	360	1981-XII-27	10	
〃 魚師	340	1981-XII-27	8	
〃 板ヶ谷	260	1982-I-10	13	
〃 横谷	400	1981-XII-27	15	
〃 河内	240	1982-I-10	2	
〃 川谷	320	1982-I-10	23	多い
〃 熊走	400	1981-XII-29	9	
〃 日尾	320	1981-XII-29	34	多い
〃 堂	260	1981-XII-29	4	
〃 倉ヶ岳	300	1981-XII-29	4	

表-1. 採卵一覽表

(注) オナガシジミ採卵には、モロミチ君が絶対必要です。モロミチ君でオナガシジミを
落しました。

- *1. 翔 NO25 P17. ゼフおだ話(2)
- *2. 翔 NO5 P10. オナガシジミ
- *3. スキーが技術的にできないのではない青年。

石川県産ウラゴマダラシジミの採卵記録例

松田 俊郎

ウラゴマダラシジミは、今や県内産ゼフィルス類のうち最も採卵
しやすい種類であると思われる。

しかしながら白山山麓では、各所にイボタが存在するが金沢市周
辺のようにイボタの発見=ウラゴマダラシジミ卵、というわけには
いかず、卵をさがすのは至難の技術が必要かと思われる。

次の地点にて本種の卵が得られたので記録しておく。

1. 石川郡尾口村自附谷 1981-XI-22 9卵 嶋山耕採
2. 〃 自峰村赤谷川 1981-XI-23 18卵 松田・野中・嶋山耕採

* 野中 勝 (1982) ゼフおだ話(2) 採卵難易度 翔 NO.25

ウラゴマダラシジミ採卵例

嵯峨井海部

既産地であるが、次の個所にてウラゴマダラシジミを採卵しているので記録しておく。この卵は、当日野中勝・松井正人の西人と県産ヒサマツミドリを求めて小松市の山間部を調査した際の副産物である。産卵金樹はイボタ。

小松市新保

1981-Ⅹ-11

4卵

※富樫一次(1975)

とっくりばち №30・31

左礫・杖川・大日川ダム周辺におけるゼフィルス採卵調査

野中 勝・松田俊郎・嵯峨井海部

1981年12月6日、筆者ら3人により石川郡鳥越村^{シバノガキ}左礫・杖川～小松市大日川ダムにかけてゼフィルスの採卵調査をした。各地とも11月30日夜の降雪のため、幾分移動が困難であったが、次の各種類のゼフィルス卵が確認できたので記録しておく。()内は産卵金樹を示す。

1. ジョウザンミドリシジミ	小松市大日川ダム	11卵(ミズナラ)
2. オオミドリシジミ	鳥越村左礫	1卵()
	小松市大日川ダム	1寄生卵(コナラ)
3. ダイノミドリシジミ	〃 〃	36卵(ミズナラ) 2卵(コナラ)
4. ウラミスジシジミ	〃 〃	5卵() 1卵()
5. ミズイロオナガシジミ	〃 〃	1卵() 2卵()
6. ウラギンシジミ	鳥越村杖川	12卵(ヤマトアザミ)
7. オナガシジミ	〃 〃	7卵(オニグルミ)
8. ウラゴマダラシジミ	〃 左礫	27卵(イボタ)

なお、左礫地内において有望視されていたアカガシは、野中によりつぶさに調査されたがゼフィルス発見には至らなかった。

石川県産メスアカミドリシジミの追加産地

野中 勝

メスアカミドリシジミを次の地点にて採卵確認した。県産メスアカミドリシジミの追加産地として記録しておく。いずれも、1981年

11月20日採卵のものである。

1. 石川郡吉野谷村湯ノ谷
2. " 尾口村目附谷
3. " 尾口村一里野

6卵 (サクラ種名不明)
7卵 (W2卵生卵 キキマザクラ)
3卵 (キンキマザクラ)

高倉山採卵行

松井正人

加賀富士の異名を持つ高倉山(石川郡吉野谷村)は、中宮や布ノ瀬へかよう道すがら特に佐良付近からかってよく見え、一度は登りたい山だと思っていました。

1981年11月29日、あこがれの山へ登ることに、採卵する事の両得をもちろんで高倉山へ出かけました。これには訳がありまして、幾日か前、野中氏より聞いた話に原因があるのです。「メスアカがあちこちで採れてるよ。標高500m以上でないとだめじゃないのかなあ」。高倉山は922mなのです。ここは以前より登りあぐねていた山行に火がついたのでした。登りはただひたすらにピークをめざす普通の山行とし、下りは採卵行と決めました。

市原の役所横より回りこんで小中学校の前を通り、すこし行くと簡易水道施設のちようど長い駐車場があります。3台位止められえます。ここより歩いてすぐに水路脇に出て、しばらく登ると鉄塔に出ます。ここよりゆるやかな屋根歩きで、脊にはギフ4ヨウも飛んでいます。しばらくして畑の横を通りまた鉄塔にぶつかります。これを通りすぎると山道にぶつかります。ここで進路を90度左に変えて登りとなります。落葉が道をうめつくっていて、道のでこぼこをかくれています。すべる所や歩きにくい所があってもわかりません。

この辺りにもヒメカンアオイが長くさん見られます。歩き始めて1時間位で、炭焼の釜跡があります。この辺りで山道はなくなり、ヤブコギとなります。昨晚ちらついた雪が木々の枝に積もっていてヤブをコグたびに粉雪が降ってきます。途中、カラマツとアカマツの植林地があって、下刈がなされていたので100m位はヤブコギしなくてすみました。ヤブコギを始めて約1時間、ピークとおぼしき所へ約10分、三角点がありました。見はらしがよく、天気も良く、ダムの湖面はキラキラ輝やいているし、茂の白とバックの濃紺の空も最高でした。ビールが1本しかないのをくやみました。周辺にはみすばらしいブナの木があります。たえきれない衝動で2・3本捜してみしました。でたのはため息だけでした。ここでラーメンとウメボングニギリを1個食べ12時半に下山しました。ミズナラにチラチラ

目が向くのですが、今日の本命はサクラなのだといいきかセッ下
山しました。にもかかわらず、おもわずおいレそうミズナラに登
ってしまいました。アイノはありませんでした。もう一本。やっぱ
りアイノはありません。アイノが採れないのをごまかすために、サ
クラをさがします。そうです。今日の本命はサクラなのです。あり
ました。カラヤリ・アカマツ植林地のやや下で、メスアカが2連発
です。ヤッターマンです野中さん。もっとないかとさがしたのです
がもうありません。全然ありません。ここでサバ根性が気分転換
だと大騒ぎして、しょうこりもなくまたミズナラに登ります。
やっとありました。アイノ1卵。ここよりサクラを徹底的に、ミ
ズナラをチラッと見て下山しました。登り2時間20分の所を4時間
かけて下りました。その成果は、

ダイセンシジミ 6卵
メスアカミドリシジミ 4卵
FAVO 26卵

ミズイロオナガシジミ 1卵
アイノミドリシジミ 4卵

でした。

—— ゼフおだ話(3)・ミドリシジミ類の遺伝とハッ当たり ——

野中 勝

ミドリシジミ類雌の多型の遺伝様式について考えてみたい。御存
知の様にこれらには、D、A、B、AB型といった名がつけられてお
り、一見ヒト血漿型と同様の遺伝をレそうであるが、果してそうで
あろうか？ ヒサマツミドリシジミを例にとりて考えよう。雌は稀
にB型が出現する様だが、話を簡単にするため、ここでは全てAB型
とする。雄は何型かわからないのだが、常識的に雌が全てAB型なら
雄も全てAB型と考えられる。するともし、ヒト血漿型と同じ遺伝様
式ならその子は、AA:AB:BBが1:2:1の割合で出現するはずで、

全てAB型というわけにはいかない(雄がAB型でなく、DD、DA、DB、
AA、BBのどれかだとしても、子がAB型のみになりえないのは同様
である)。従ってミドリシジミ類雌多型の遺伝は、ヒト血漿型の遺
伝様式(単一遺伝多座にD、A、Bの複対立遺伝子が存在する)と
異なり、A、Bを支配する遺伝子は別々の遺伝子座に存在すると結
論される。やや専門的な話になったが理解して頂けただろうか？

ついでに月刊おしをお持ちの方は、12月号の「アイノミドリシジ
ミの遺伝について」という、西田真也氏の一文を読んで頂きたい。
僕は正直なところ、これは極めて出来の悪い報文だと思ふ。好意
的に解釈すれば、西田氏も僕と同様、ミドリシジミ類の遺伝は単一
遺伝子座ではなく、複数の遺伝子座で支配されていると主張してい

るのだと思うが、文中にそれが明記されてなく、対立遺伝子が複対立遺伝子か単対立遺伝子かなどという不適切な用語で置き換えられている。従って多くの読者にとって、この報文のいわんとするところは皆目見当がつかないに違いない。更に「はじめに」の部分には、「生物学的には非常識な内容かもしれないが、あくまでも数値の解釈である」などと、堂々と書いてある。冗談ではない。沢山飼育して、そのデータを電卓などを使って、あれこれひねり出すのは個人の自由だが、金を払ってそれを読まされる側はたまらない。書く方も問題だが、載せる編集者の方にはもっと問題で、大衆誌である以上、おずかしい内容でもわかり易く解説することを心がけるべきで、あたりまえのことをやたらややこしく扱って偉がるなど最底のことである。

脱線してしまっただが、ついでに少レハッ当たりを続ける。保育社のクオツの生態図鑑の239頁や、石川県の自然環境資料4分冊66頁のクロコウサキに関する記述を読んで頂きたい。

いずれも遺伝学用語の「劣性」を日常的な意味の劣性と混同するという初歩的なミスを犯した結果、遺伝学を少しでも知っている者にとっては吹き出れなくなるような事が書かれている。僕はこれを執筆した人々の遺伝学の知識の欠除を責める気はない。誰だって知らないことは山ほどある。しかし問題なのは、自分の無知をわきまえず、偉そうに何でも書きたがる、むし屋にありがちな姿勢である。

その根底には、一般のむし屋は自分よりもっと無知に違いないという安心感があるのだろう。何とかむし屋のレベルを、この種のにせ学術派の徘徊を許さないところまで上げたいものである。と終るつもりだったら、藤岡大先生の大図鑑では「DNA」が「アミノ酸」から構成されることになっているのを発見した。アアッ——。

——柳の下にどじょうはいない——

——クオツキチホマレ——

1本のミズナラより、小1時間位でゼフ82卵を出した奴がいる。関東方面に分布している、異昔木血どとにすると長った80卵。カンカラカラと、一挙に付されるかも知れんが。

まだまだ時間をかけて捜せば、もっと採卵でき長と思うが、小心物のその男は、ガサガサ者がすると熊かと思い、ヒューヒューすると雪が降るんじやネーかと空も仰ぎ、終始、周囲を気にして落ちつきがなかったのだ。

時は'81-12- (金)、場所、小松市大目ダム周辺。北陸の12月としては珍しく大快晴。そ奴は、所用で仕事を休み、余った時間を採卵の為に山へ走ったのだ。念のためにスパイクタイヤを積みこんで。黒森の左様より大目ダムにかけては、シモが降り、道路はガチンガチンに氷りついて

いた。昔のTSU-E-80に出てくるエゾの木みたいな大木に登り、まず下から2番目の枝につかまり先端へ手と目を向ける。あつたあつた、アイノアイノ、アイノ、アイノとたてづけに4卵。-----以下あとで数えたら82卵あったというくらいらしい。ノイラツシユがフイーバーかほかまたボクシングで大入りしたこの気分。どなたか味わてョーダイ。

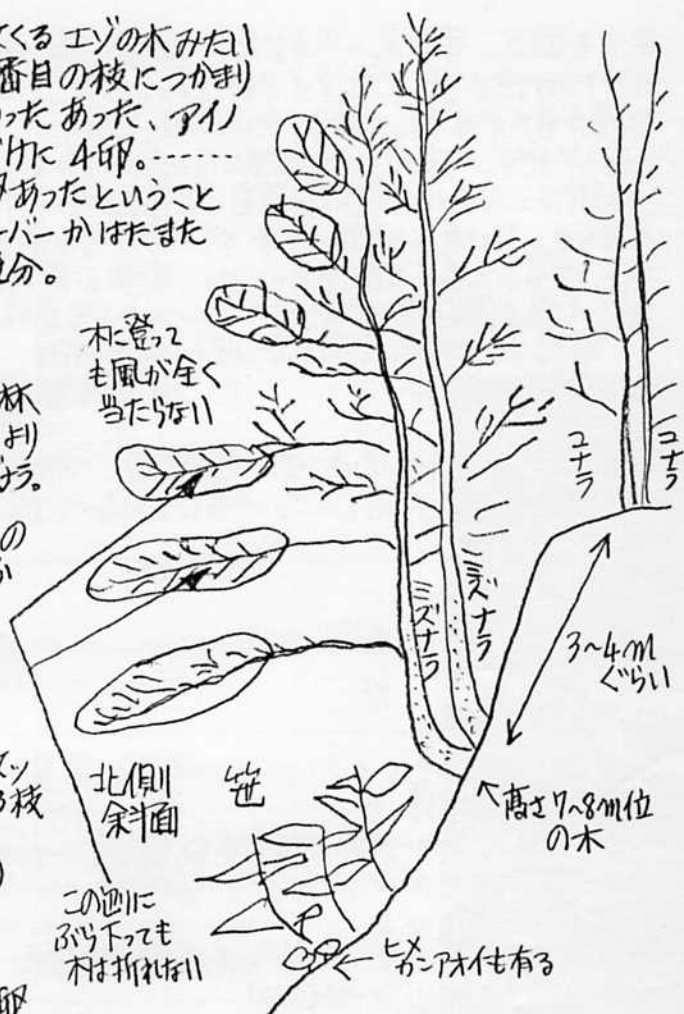
【条件】

1. 比較的にコナラの多い雑木林 (こは、男の野中氏がコナラをアイノを出したところ)の中のコナラ。
2. 根元が直径40~50cm程の大木。芽はもちろん赤芽のかわいいやつや。黄芽・黒芽ではない。
3. 風が強いのに木に登って見ると、風が当たらない。
4. 北側斜面空間に似て、又、とつぎ出た、下からオ1.2.3枝の先端あたりに集中。(他の枝にもいる可能性有り)

【結果】

アイノミドリ 42卵
FAVO (多分ジャザンミドリ) 29卵
ウラミスジジミ 11卵 合計82卵なり。

その3日後、この男は柳の下でビョウが採りたくて、積雪(3日後には雪が降っていた)をついて再び挑戦。大目ダムに車を捨てて徒歩にたよること30分、ヒザ下の雪が腰に来、おまけに吹雪となり、あえなくダウン。家へ帰ったら熱が出て、ゴホンゴホンと咳が止まらず。バカだねー。



チヨウキチホマレ

ヒサマツミドリ 3桁採集した人の実談

TSU-E-80の何号だったかに「岐阜県上石津にてカメヤンという人がヒサマツミドリを180頭採った-----云々」というニュース記事に賞えのある方があるかも知れないが、そのカメヤンとは麓山元氏(鹿嶋市照国町にて大銀魚の商売をやっている)が愛鳥とともに11月17日(1981年)にひょこり

金沢を訪れ、筆者宅へ寄られた。その根、蝶の話を花が咲き、ひんなことからヒサマツの話が出、上石で三軒採ったのは、実は私ですと自白された。その時の標本の大半は手元に無く、たいがい、日本蝶界の大御所(丁氏、西氏、下氏、I氏 etc)や地元の蝶屋にむしはされたとか語られていた。

三軒のヒサマツを採集した当日(10年程前の6月中旬)朝8⁰⁰~11⁰⁰に松井^{*}が見られ、白い花をつけたシラキ、クリ、イボタ等の花上に強い訪花性を示し、次から次と吸蜜のためにとんできたという。成虫の前翅はヒガリが強く雄々表の色調もくすんだ銀青色とは異なり、ギラッとくる素晴らしい感じだとおっしゃっている。

どうしてもヒサマツの自然産を欲しいという方は、誰か例の場所を挑戦してみてくれないかね。………? (*松井時刻に712は異論あり)

ちなみに、龜山氏は32才、岐阜県出身、TSU-I-SO愛読者、TSU-I-SOカスタム愛読者名義に氏の詳しいことが書いてあるから読んで下さい。

チョウキチホマレ

目

次

白山釈迦岳でミヤマカラスジミの卵殻を発見	野中 勝	1
ゼフィルスの新産地	野中 勝	1
石川泉産オナガシジミの採卵記録例	野中 勝・嵯峨井海郎	2
大目川ダムにてオナガシジミを採卵	嵯峨井海郎	2
墮ちたオナガシジミ	松井 正人	3
石川泉産ウラゴマダラシジミの採卵記録例	松田 俊郎	4
ウラゴマダラシジミ採卵例	嵯峨井海郎	5
左礫・杖川・大目川ダム周辺におけるゼフィルス採卵調査	野中・松田・嵯峨井	5
石川泉産メスアカミドリシジミ追加産地	野中 勝	5
高倉山採卵行	松井 正人	6
ゼフむだ話(3)・ミドリシジミ類の遺伝とハツタリ	野中 勝	7
柳の下にビビウはいない	チョウキチホマレ	8
ヒサマツミドリ 三軒採集した人の実談	チョウキチホマレ	9

期

№ 27

1982年 3月 1日(月)

発行：金沢市三石新街4-9-34・松井正人方

編集・校正：

百万石蝶談会
嵯峨井海郎